

ダイヤモンド就活ナビ2022 就職モニターレポート12月調査

【調査概要】

- ◆調査対象 2022年3月卒業予定の大学院生・大学生
- ◆有効回答 734名
- ◆調査期間 2020年12月1日（火）～2020年12月10日（木）
- ◆調査方法 WEB入力フォームより回答

【回答学生の内訳】

文系	理系
558名 (76.0%)	176名 (24.0%)

【回答の多かった学生】

中央大学、青山学院大学、関西学院大学、早稲田大学、東京大学、千葉大学、立教大学、慶應義塾大学、同志社大学、明治大学、東京都立大学、北海道大学、國學院大學、明治学院大学、東洋大学、近畿大学、専修大学、南山大学、日本大学、成蹊大学

【大学エリア別回答学生数】

北海道	100	13.6%
東北エリア	0	0.0%
関東エリア	404	55.0%
甲信越エリア	24	3.2%
東海・北陸エリア	40	5.5%
関西エリア	116	15.9%
中・四国圏エリア	42	5.7%
九州・沖縄エリア	8	1.1%
合計	734	100.0%

◆TOPICS◆

※インターンシップ類：インターンシップ、1日仕事体験、キャリア支援プログラム等を含めます。

<インターンシップ類参加状況>

インターンシップ類参加率は71.1%。昨年より7.3ポイント減。

参加のきっかけは「インターンシップ（就職情報サイト）」が90.4%。

参加しなかった理由は「選考・抽選に漏れてしまった」が15.8ポイント増加。

<インターンシップ類参加形式>

インターンシップ類参加社数は3.51社と微増。「半日」「1日」参加がどちらも7割越え。

「オンライン」(66.9%)と「対面+オンライン」(4.4%)で7割以上がオンライン参加。

参加したいインターンシップは「対面」が67.1%で約7割の学生が希望している。

<就職活動観>

30.9%が「展望が見えず悲観的だ」、54.0%が「苦戦するかもしれない」と回答。

入社したい企業には「やりがい、適性が合えば企業規模は問わない」(39.4%)がトップに。

<コロナ禍の学生生活>

後期の授業形式「全てオンライン授業」が48.8%。オンライン授業はメリット・デメリットの両方があり、就活や学業への学生の姿勢は二分。好機ととらえる学生の声もある。

【本調査に関するお問い合わせ】



株式会社
ダイヤモンド・ヒューマンリソース

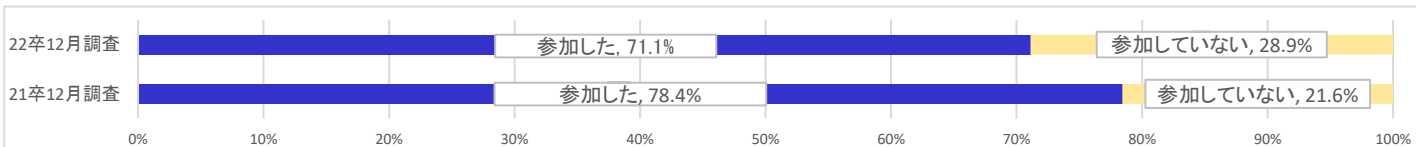
経営企画室

TEL : 03-5319-2450

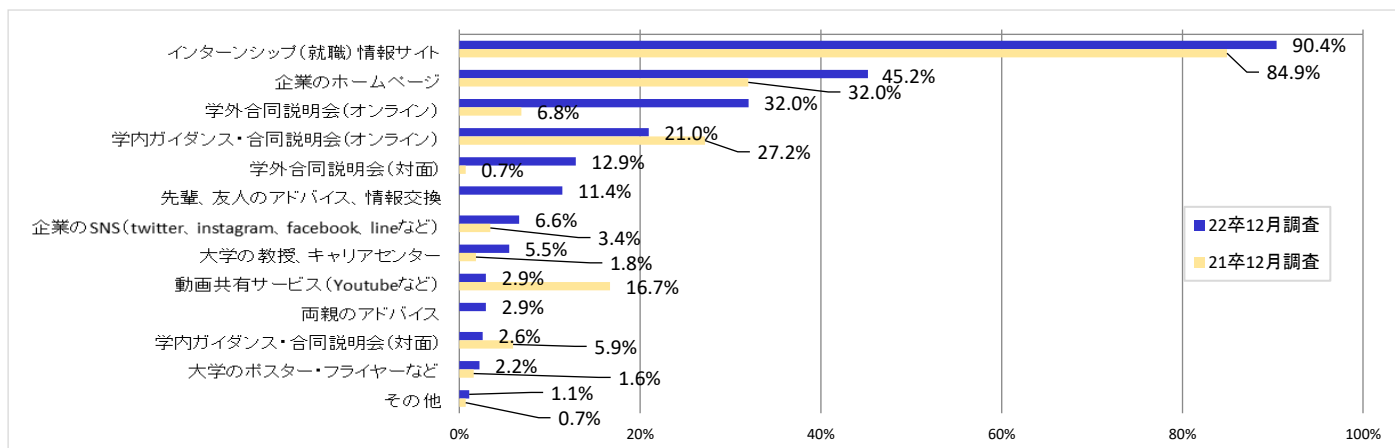
E-mail : marketing@diamondhr.co.jp

インターンシップ類参加状況

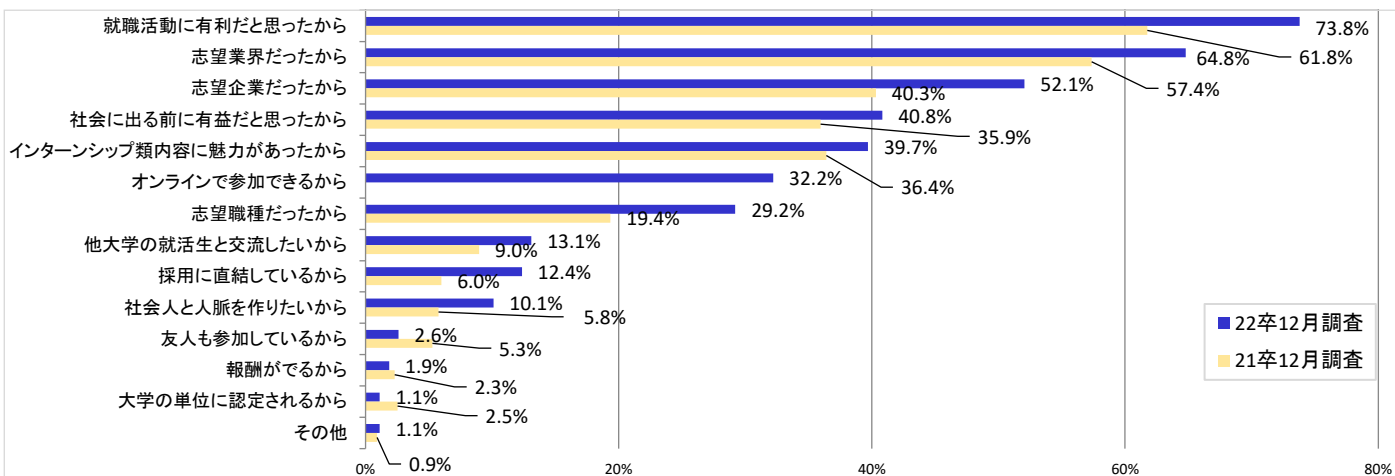
◆今年度の企業主催のインターンシップ類に参加しましたか？



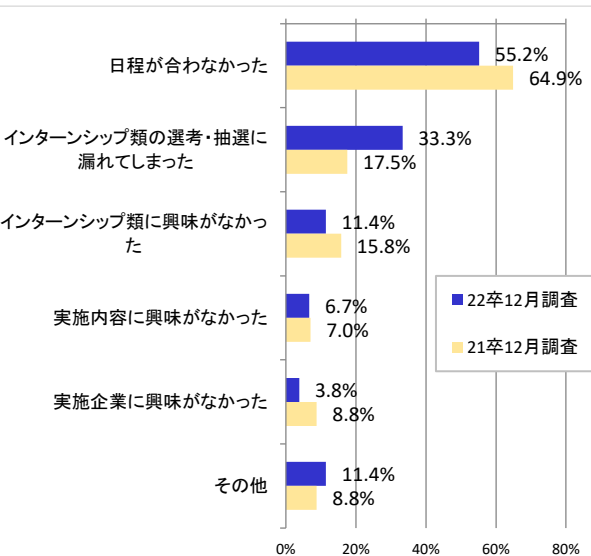
◆参加のきっかけとなったものをお答えください。（複数回答）



◆インターンシップ類に参加した理由は何ですか？（複数回答）



◆インターンシップ類に参加していない理由は 何ですか？（複数回答）



インターンシップ類参加率は71.1%。

参加きっかけは「インターンシップ(就職)情報サイト」が9割越え。
参加理由は「就活に有利」「志望業界」が上位2位。

インターンシップ類に「参加した」学生は昨年比7.3ポイント減少し71.1%となった。

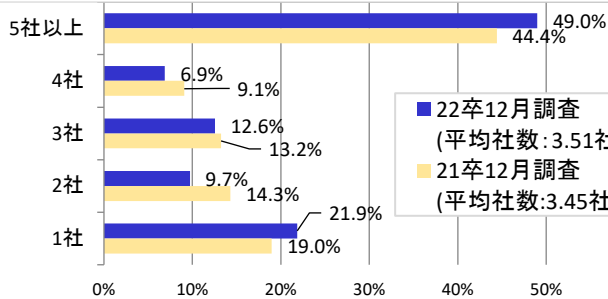
参加のきっかけは昨年同様「インターンシップ(就職)情報サイト」(90.4%)、「企業のホームページ」(45.2%)の順だがオンライン開催の「学外合同説明会」(32.0%)が昨年比25.2ポイント増加、コロナ禍の影響でオンラインでの情報収集が盛んになっているようだ。

参加理由は「就職活動に有利だと思った」(73.8%)、「志望業界だった」(64.8%)「志望企業だった」(52.1%)が過半数を超えた。

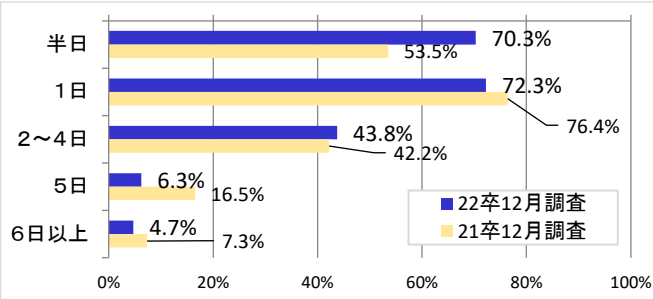
参加していない理由は「日程が合わなかった」(55.2%)に続く、2位の「選考・抽選に漏れた」が33.3%と昨年から15.8ポイントと大幅に増加した。一方「興味なかった」学生も11.4%と昨年から4.4ポイント減少しており、参加意欲はあっても叶わなかった学生が増えていることが推察できる。

インターンシップ類参加形式

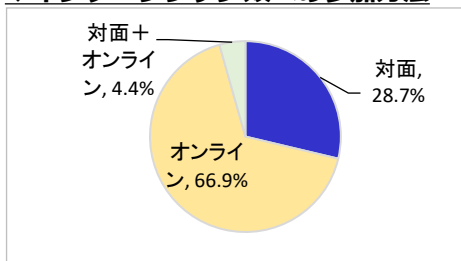
◆インターンシップ類には何社参加しましたか？



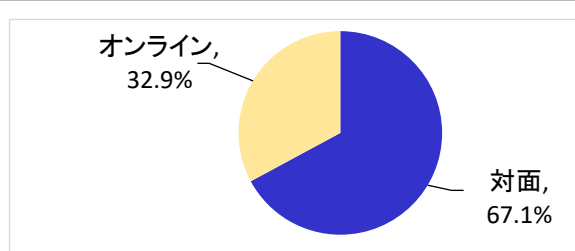
◆インターンシップの参加日数を教えてください



◆インターンシップ類への参加方法



◆対面とオンラインではどちらのインターンシップ類に参加したいですか？

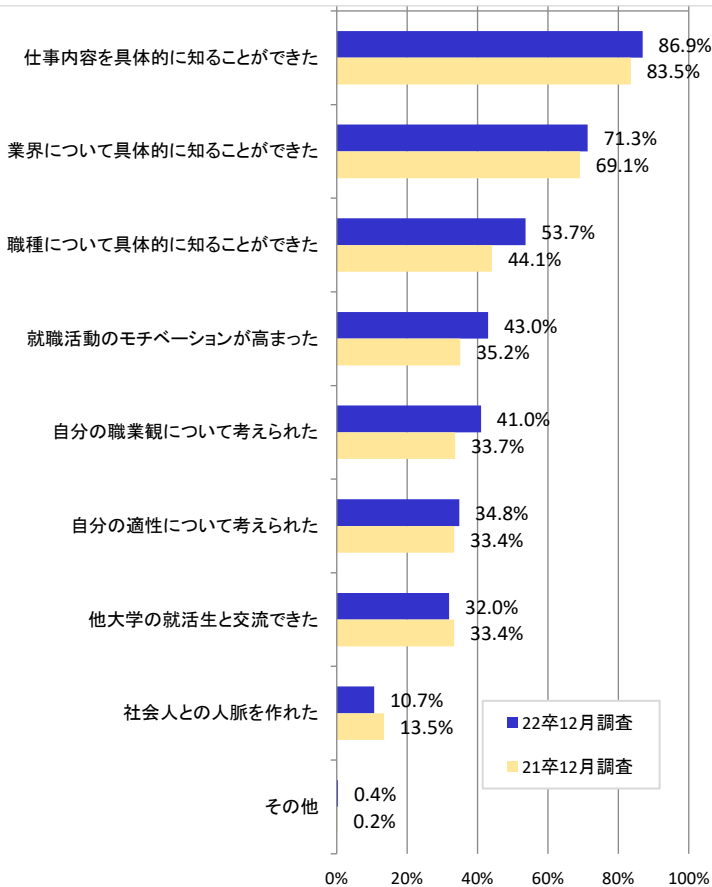


平均参加社数は3.51社。参加方法は大半がオンライン、参加したいインターンシップは「対面」が約7割。

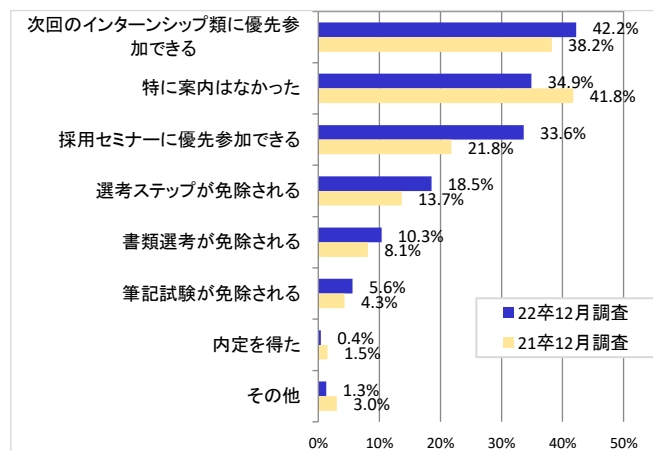
インターンシップ類への参加社数は1位が「5社以上」（49.0%）で昨対比4.6ポイント増加した。平均参加社数は3.45社から3.51社へと増加している。参加日数は「1日」（72.3%）と「半日」（70.3%）が7割以上で上位を占めている。「半日」開催は昨対比16.8ポイント増加している。

インターンシップ類参加方法は「オンライン」（66.9%）がトップで、「対面」形式はオンラインとの併用とも含め、33.1%に留まるが、学生の希望形式は「対面」が67.1%と、約7割の学生が対面型インターンシップを希望している。

◆インターンシップに参加してよかった点を教えてください。



◆参加後に採用選考の優遇案内がありましたか？



参加してよかった点は「仕事内容を具体的に知ることができた」約9割、「採用セミナーに優先参加できる」昨対比11.8ポイント増加。

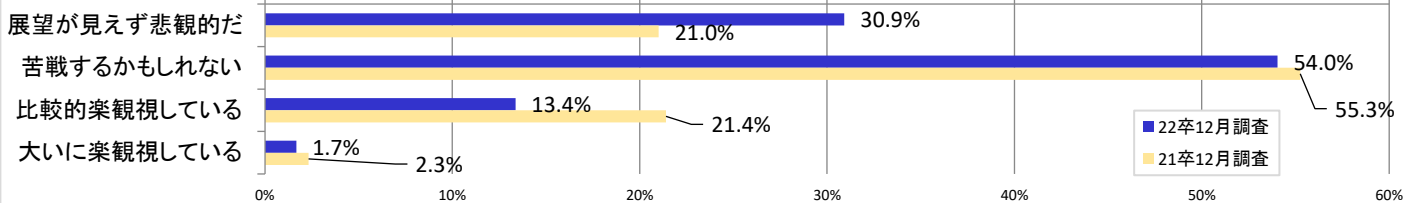
インターンシップ類に参加してよかった点は「仕事内容を具体的に知ることができた」（86.9%）が約9割だった。

参加後の採用選考の優遇案内は「次回のインターンシップ類に優先参加できる」（42.2%）がトップだが、昨対比で一番増加したのは「採用セミナーに優先参加できる」（33.6%）で、11.8ポイント増加した。

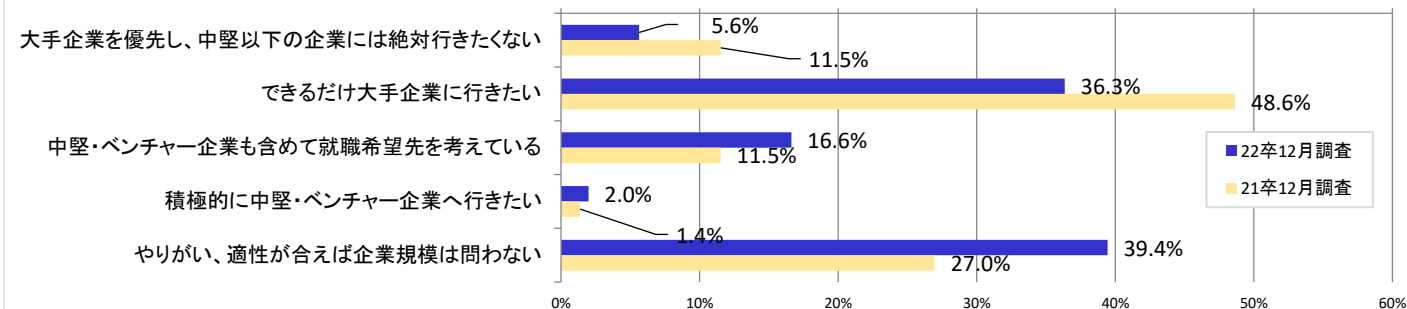
学生にとって仕事内容を知ることができる他、企業にとって効率よく選考を進めることのできるツールであるといえる。

就職活動観

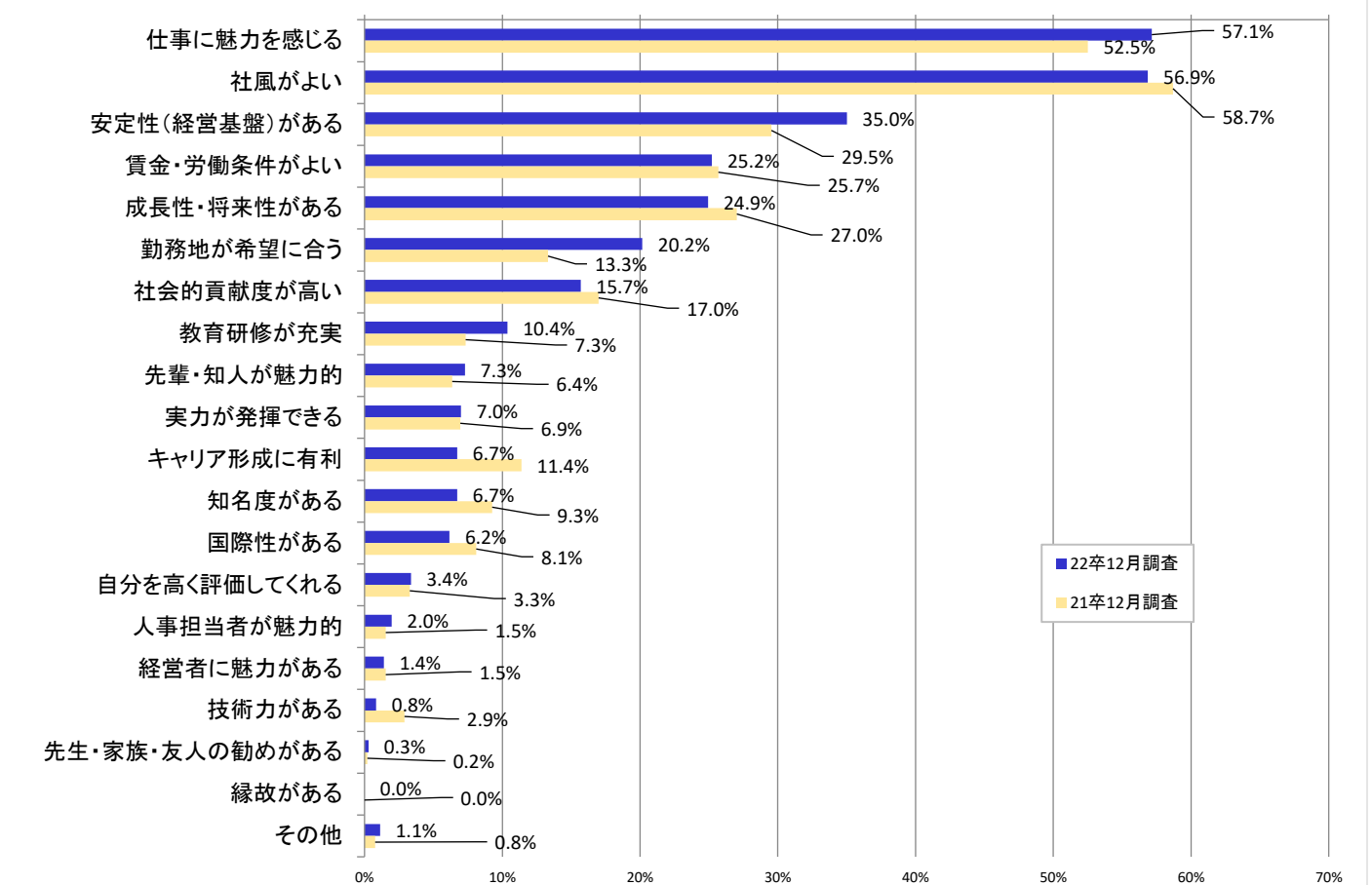
◆就職活動に向けて、現在の考えに近いものをお答えください。



◆どんな企業に入社したいと思いますか？現在の考えに近いものをお答えください。



◆企業を選ぶ基準は何ですか？現在の考えに近いものを3つお答えください。



就職活動を「苦戦するかもしれない」「悲観的だ」回答学生は合計約8割以上。

入社したい企業は「やりがい、適性が合えば企業規模は問わない」が昨対比12.4ポイント増加。

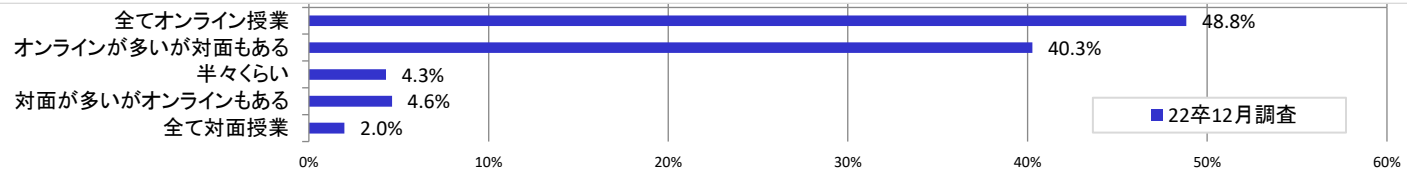
就職活動に向けた現在の考えは「展望が見えず悲観的だ」(30.9%)が昨年から9.9ポイント増え、「苦戦するかもしれない」(54.0%)と合わせて8割以上の学生が厳しさを感じている様子がうかがえる。

入社したい企業は「やりがい、適性が合えば企業規模は問わない」(39.4%)がトップで、昨対比12.4ポイント増加した。昨年トップだった「できるだけ大手企業に行きたい」(36.3%)は昨対比マイナス12.3ポイントで、逆転した。

企業を選ぶ基準は「仕事に魅力を感じる」(57.1%)がトップだが、昨対比増加でみると「安定性(経営基盤がある)」(35.0%)が昨対比5.5ポイント、「勤務地が希望に合う」(20.2%)が昨対比6.9ポイントと、昨年に比べポイントの増加が目立った。

コロナ禍の学生生活

◆ 後期の授業形式を教えてください。



◆ オンライン授業で感じたメリットがあれば教えてください。

通学時間が無くなるため、空き時間を利用して企業を調べたり、自己分析をしたりすることができる。
自分の予定に合わせて、課題のスケジュールを立てることができる。課題やレポートが以前より増えたので、パソコンに向かう機会が増え、就活に関することにも役立つと思う。
就活のイベントに参加しやすい、時間調整ができる、パソコン技術が少し上がった
ゼミや英語などで発表資料を共有する際準備が必要ない通学時間が必要なく予定が立てやすいオンデマンド型の授業も多いためインターンなどの融通がきくテストやレポートの準備がしやすい
学校に行くための交通費や移動時間を取られない。また、コロナにかかる心配も少なくなる。 就活生にとっては規定の授業時間に拘束されることがなく就活ができる。(オンラインだと自分の好きな時間に受講できる)
通学時間が無くなったので勉強時間や就活の準備時間に充てることができた。就活イベントにより多く参加でき、人数が少ないため質問がしやすかった。
移動時間がない。交通費もない。睡眠時間を取れる。
質問をチャットで簡単にできる。
オンデマンド形式のものが大半であるため、講義を自由なスケジュールで受けやすい点
通学時間が節約されるため、その分他のことに時間を使える。また好きな時間に受講できるため、平日の昼間に自動車教習所に通いやすい。
授業のペースが早くて追いつかなくても、一時停止などができるため、自分のペースで授業を聞くことができる。

◆ オンライン授業で感じたデメリットがあれば教えてください。

誰かと話す機会がほぼなくなってしまい就活をどう進めていけば良いのか、といった漠然とした不安を外部に相談しづらい。
就活などの情報共有をする機会がほとんどない。
大学生感が減ってしまう。ほぼ就活になってしまう。
課題量が多すぎて就職活動がままならない。
目が疲れる、モチベーションが上がらない、通信環境によってコミュニケーションが取りづらい時がある、実家にいると図書館の本が借りにくいのでレポート書く時に困る、ゼミもオンラインなのでゼミメンバーと親睦が深まらない。
質問点があってもメールを用いなければならない点。 また柔軟に時間が使えるが故に、予定管理能力がないと後回しにしすぎて後々苦しむはめになる点。
友人と会えず、情報を集める機会が少ないモチベーションが上がらない。オンデマンド配信に頼り、授業や課題を忘れることがある。 外に出る機会が非常に少なくなり、気分が落ち込みやすい。
家にいることで誘惑が多く、集中力が続きにくい。また、環境面で研究室で受けられないので、時間割によっては研究室に行けなくなってしまう。 さらに、カメラなどの機材をそろえるのに苦労したり、家に他の人がいた場合にとても落ち着かない。
自分一人でモチベーションを維持するのが難しい。人に直接会っていない分、精神状態が前年度以前に比べて不安定。 悲観的な考えばかり浮かぶようになった。
資料の準備を自身で行う必要がある。対面よりも、どうしても情報が少ない。オンラインの調子が悪く、欠席扱いになった。
自由にされすぎて、曜日に縛られることがなくほとんど無く、気が付いたら日を間違えており 課題を忘れてしまうことも。
ゼミの先生がオンラインを気に入ってしまい対面に戻すのを不安視している。 友達と会えない。校舎維持費を払っているから校舎を使いたい。図書館やコピー機など。
Wi-Fiなどのネット環境が整っていないとPCでは授業が受けられないし、電波が悪いと途切れてしまう。 授業にやりがいを感じないし、何のための学費を支払っているのかわからない。
講義で分からないことを質問しづらい(特にzoomアプリを用いない場合)。生活習慣が乱れる。 学期の途中で対面授業が始まると、後で忙しくなる。結果、単位を修得しづらくなる。

後期の授業形式「全てオンライン授業」が48.8%で約半数。
オンライン授業はメリット・デメリットの両方があり、就活・学業に挑む学生の姿勢は二分。

後期の授業形式は「全てオンライン授業」(48.8%)で約半数の学生がオンラインでのみ授業を受けているようだ。「全て対面授業」の学生は2.0%しかいないことから、いかに多くの学生がオンライン授業の学生生活を送っているかが読み取れる。

オンライン授業ではメリットとデメリットの両面がある。

メリットは「時間の融通が利く」→「隙間時間で自己分析などの就活対策ができる」・「インターンシップやイベントなどの就活予定を好きに組める」、「オンライン授業でPCをたくさん使う」→「PC技術の向上により就活に役立つ」などがある。

デメリットは「友人や先生など、他人と会う機会がない」→「就活の情報共有をする機会がなく、モチベーションも上がらない」「課題量が多すぎる」→「就活に割く時間がない」などがある。

オンライン授業を好機と捉え、自律的に就活や学業に挑む学生と、逆に外からの刺激がない為不安でモチベーションが上がらない学生に二分されている様だ。